

国産純粋種豚改良協議会の設立と事業の進め方

設立の趣旨

- ◎ 我が国の種豚改良は、民間種豚生産者、都道府県や国の改良機関等がそれぞれで進めてきたため、改良規模が小さい等の理由により、改良速度が遅く、海外の種豚の能力と大きな差がある。
- ◎ この状況が続くと、国内種豚の改良基盤が衰退し、特長ある国産豚肉の生産が縮小する恐れがある。

そこで

国内の種豚改良に携わる関係者が協力・連携して、新たな豚改良体制（協議会）を構築し、優良種豚の効率的な活用を図ることで、国産純粋種豚の改良を進める。

事業内容の概要

新たな豚改良体制を構築し、協議会内で純粋種豚の改良及び活用を進めるため、3つの事業を実施します。

1. 同一基準遺伝的能力評価事業

遺伝的能力を正確に見極めるため、血縁ブリッジの構築を図り、協議会内同一基準による遺伝的能力評価を実施する。

2. 種豚交流活用事業

会員が種豚の改良を効果的に行うため、遺伝的能力評価結果を利用し、会員間で種豚や精液の交流を図る。

3. 特定形質改良事業

協議会で特定形質に着目した改良種豚群を造成し、会員内で育種素材として活用する。

事業の対象品種（3品種）

ランドレース種、大ヨークシャー種、デュロック種

1. 同一基準遺伝的能力評価事業

① 収集・提出データ項目

1) 繁殖形質

生存産子数、死産数、哺育開始頭数、生後5日齢生存産子数(LP5)及び離乳頭数

★ データ提出方法：一腹記録を活用して提出が可能

2) 産肉形質

概ね105kg(困難な場合は80～130kgの間で測定)における体重及び背脂肪厚(BF)

★ データ提出方法：協議会専用の様式にて提出

② 遺伝的能力評価項目

1) 繁殖形質

生存産子数、死産数、LP5及び離乳頭数

2) 産肉形質

105kg時の1日平均増体重及びBF

※ 105kg時のデータが収集できなくても、提出されたデータを基に家畜改良センターが105kg時の値を算出します。

3) 評価頻度及び機関

3ヶ月毎に家畜改良センターが評価、日本養豚協会とともに結果公表。

<お願い>

- 精度の高い遺伝的能力評価事業を行うためには、成績の良し悪しに関わらず多くの正確なデータが必須です。
- データの提出について、紙で提出する場合は、日本養豚協会又は都道府県の事務委託団体へ、WEBから提出する場合は、PIG-PINSによる直接入力により提出してください。
※ 詳しくは別紙「データ収集・提出マニュアル」を参考にしてください。
- 遺伝的能力評価結果については、日本養豚協会（評価値）及び家畜改良センター（優良種豚ランキング）から会員に公表します。

2. 種豚交流活用事業

1) 優良種豚の探索

改良センターの公表する優良種豚ランキング(別紙様式第2号)を用いて、自農場の種豚の改良に見合う種豚を探索してください。

2) 種豚、精液の導入

会員間で種豚、精液の譲渡について協議し、育種素材として導入してください。

3) 導入結果の報告

種豚、精液を導入したら、その結果を育種素材導入データ報告様式(別紙様式第3号)にて日本養豚協会へ報告してください。

※ 種豚探索及び導入に関するご質問がありましたら、日本養豚協会及び家畜改良センターへご相談ください。

<お願い>

自農場の種豚の改良を効果的に行うため、血縁ブリッジの構築を図り、優良種豚ランキングを用いて、会員間で種豚、精液の交流を進めてください。

3. 特定形質改良事業

1) 改良目標の決定

協議会が概ね5年毎に改良すべき特定形質の改良目標を設定。

2) 種豚群の造成

改良センターは、1)の改良目標を達成するため、協議会内外から育種素材を収集し、集中的に育種改良し、5年後を目処に育種改良の中核となる種豚群を造成。

3) 改良用育種素材の供給

改良センターは、2)により造成された種豚群から生産される種豚、精液等を育種素材として会員に供給。

※ 種豚群の基本的な育種改良計画及び造成については、協議会と情報交換しながら進めていきます。

<お願い>

特定形質に着目した育種改良の中核となる種豚群を造成していますので、会員は種豚を育種素材として活用してください。

事業実施上の注意事項

1) 血縁ブリッジの構築

会員は、積極的に種豚や精液等の提供及び導入していただき、農場間の血縁ブリッジの構築に御協力ください。

農場間の平均血縁係数は、5%を目標とします。

2) 農場の衛生状況の把握

会員間の種豚、精液等の提供、導入を円滑に進めるため、自農場の衛生管理状況を衛生管理状況評価基準・伝染病・及び予防衛生調査基準評価シート(別紙様式第4号)にて日本養豚協会へ提出してください。

また、日本養豚協会は、会員の要請に応じて、提出された衛生管理状況の情報を提供できることとします。

3) その他

会員は、本事業により得られた情報を、外部への漏洩、事業目的以外の利用をしないよう十分注意してください。

日本養豚協会及び家畜改良センターは、事業を円滑に進められるようPIG-PINS等の情報システムの改善に努めます。

農業・食品産業技術総合研究機構は、事業が円滑に進められるよう、必要な技術的指導及び助言を行います。

～協議会に関するQ & A～

Q この事業に取り組むメリットは何ですか？

A 優良種豚ランキングにより、協議会内の優良な種豚を確認でき、自農場の種豚改良に必要な種豚や精液等を導入できます。また、協議会内同一基準による評価を行うため、自農場と協議会内の種豚の能力を比較できます。

Q 従来の遺伝的能力評価のデータ提出方法と何が違いますか？

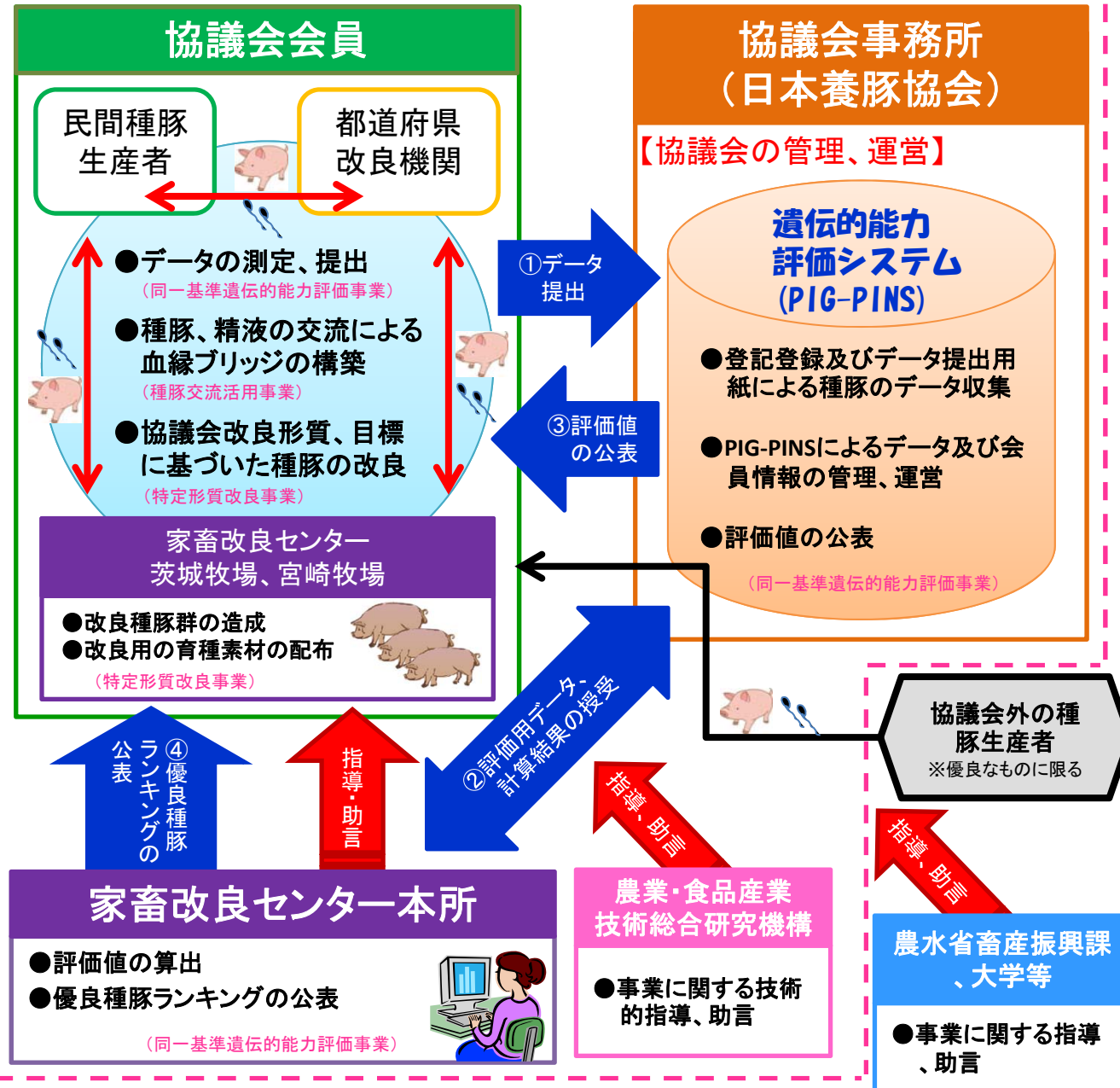
A 最低限提出すべき様式は、1. 一腹記録申請様式、2. 産肉形質データ提出様式、3. 衛生管理状況評価基準・伝染病・及び予防衛生調査基準評価シートの3つです。さらに、会員から育種素材を導入した場合は、育種素材導入データ報告様式も提出が必要になります。

Q すべての事業に取り組まなければならないませんか？

A 同一基準遺伝的能力評価事業は、すべての構成員に取り組んで頂きます。その他2つの事業は、取組可能な事業から取り組んでください。

協議会事業全体のイメージ

国産純粋種豚改良協議会



データの提出等における注意点

①データ提出

- 1) 繁殖形質の評価は、一腹記録からのデータを主に利用するため、対象となる品種について、データの良し悪し、産次に関わらず、**すべてのデータ**を一腹記録願います。
- 2) 専用用紙による体重や背脂肪厚の提出は、**1ヶ月分をまとめて**提出願います。

②評価用データ、計算結果の授受

- 1) 協議会生産者、改良機関から日本養豚協会に提出されたデータは、評価用データとして**3ヶ月毎**に編集されます。
- 2) 評価用データは、改良センター本所に送られ、評価値の算出します。
- 3) 算出された評価値は、日本養豚協会へ返送されます。

③評価値の公表

- 1) 日本養豚協会は返送された評価値を基に**遺伝的能力評価表(別紙様式第1号)**を作成し、**3ヶ月毎**に会員に公表します。
- 2) 評価値は協議会内同一基準のため、**自農場の選抜淘汰及び育種素材の導入目安**にご利用ください。

④優良種豚ランキングの公表

- 1) 家畜改良センターが評価用データを基に**優良種豚ランキング(別紙様式第2号)**を作成し、3ヶ月毎に会員に公表します。
- 2) **高い能力を有する種豚を検索し**、育種素材として活用してください。

同一基準遺伝的能力評価事業のための データの収集・提出マニュアル

協議会で実施する遺伝的能力評価は、協議会員が所有する種豚の遺伝的能力を正確に見極めるため、同一基準による精度の高い評価を行います。それには、皆様からの多くの正確なデータが必要です。マニュアルをご覧になり、適正にデータを収集・提出してください。

- どの提出方法でも提出先は、**日本養豚協会及び都道府県の事務委託団体**です。
- 正確な評価を行うため、成績の良し悪し、産次に関わらず、**すべてのデータを提出**してください。



繁殖形質

提出方法\形質	生存産子数	死産数	哺育開始頭数	生後5日齢生存子豚数(LP5)	離乳頭数
申請用紙による郵送 又はFAX	一腹記録申請用紙				子豚登記申請用紙
WEBによるPIG-PINS への入力	【産歴情報】→【分娩情報】→【備考】				【離乳情報】→【備考】

- 生存産子数、死産数、哺育開始頭数、LP5は必ず提出願います。
- 離乳頭数は子豚登記申請で提出願います。

生後5日齢生存子豚頭数(LP5)について

- 離乳頭数と遺伝相関が高く、離乳頭数の評価値向上及び早期の選抜淘汰が可能となります。
- 原則生後5日(困難な場合であっても生後3～6日の間)で頭数を確認し、一腹記録申請の余白に、PIG-PINSの場合は、分娩情報の備考欄に「LP5〇頭」とご記入ください。

離乳頭数について

- 子豚登記申請時は、所定の欄に、PIG-PINSから入力される場合は、【離乳情報】の【備考】欄にご記入ください。

「LP5〇頭」と記入

産肉形質

提出方法\形質	体重	背脂肪厚(BF)
専用用紙による郵送 又はFAX	専用用紙(産肉形質データ提出様式)	
専用用紙の電子ファイルによるE-mail	専用用紙(産肉形質データ提出様式)の電子ファイル	

- 概ね1ヶ月分の測定データをまとめて提出願います。
- DGのみの提出でも構いません。

体重及び背脂肪について

- 概ね105kg(困難でも80～130kgの間)における体重及び背脂肪厚を出荷等の作業にあわせ、測定してください。
- 同一個体について複数回測定を行った場合は、105kgに最も近い時期に測定した値を採用してください。